



医療法人 真成会



Yuzuriha
Visit Medical Office

ゆずりは訪問診療所 医師募集概要

RECRUIT
INFORMATION
FOR DOCTORS

shinseikai.okinawa

理念

Concepts

医療法人 真成会



For The Staff

職員のために

共に在宅環境を支える職員が
働きやすい環境づくりを目指し
常に改善を図ります



For The Patient

患者・利用者のために

患者・利用者の意思を尊重し、
その人らしい生活を支える為の
在宅ケアを行います



For The Region

地域のために

地域の在宅医療・介護環境が
より発展するための
地域づくりを行います

医療法人真成会は、在宅医療・介護を通して「社会福祉」に貢献します。



多職種連携で利用者を包括的に支援



私たち法人では、医療ケアは「ゆずりは訪問診療所」「ゆずりは訪問看護ステーション」、介護ケアは「まつりか定期巡回ステーション」、「ひまわり居宅介護支援センター」がそれぞれ担っています。専門職である全スタッフが毎朝一堂に会し、多業種間の連携を目的にミーティングを行うことで、患者・利用者の包括的なケアにつながっています。こうした多業種間の情報がFace to Faceで密に共有できる場は、他事業所では中々ないと自負しています。

対応地域マップ



＜＜診療範囲＞＞

那覇市

浦添市

西原町・南風原町・与那原町・南城市

宜野湾市・豊見城市・八重瀬町

中城村・糸満市



院長・事務長インタビュー

在宅での暮らしを支え、 地域医療の質向上に寄与する

ー 貴院の特徴を教えてください

屋宜院長：当院は那覇市・浦添市周辺エリアの在宅医療を支える、地域に根ざした診療所です。沖縄県で最も大きな訪問診療所であり、あらゆる患者さんを受け入れることを方針としています。

法人としては、老健や訪問介護など複数の介護事業所も運営しています。街全体がひとつの大きな医療・介護施設のような、地域の中で必要な支援が一体的に受けられる体制の実現を目指しています。

ー もともとは救急医をされていたと伺いました

屋宜院長：開業前は、救急医として沖縄県立南部医療センター、浦添総合病院で研鑽を積みました。特に浦添総合病院では、集中治療やドクターカー、ドクターヘリ、救急外来、病棟管理といった幅広い業務に携わりました。訪問診療を行うようになったのもこの頃です。以前から「まだ状態が落ち着かないけれど退院していく患者さんを、往診で最後までフォローしたい」という思いを持っており、それを救命救急センター長に伝えたところ快諾してもらったことがきっかけでした。

ー なぜ訪問診療所を立ち上げたのでしょうか

屋宜院長：「在宅でも、病院と同等の医療ができる」という思いからです。それは私がドクターカーやドクターヘリといった、機材が限られた状況で診療する経験をしてきたことも大きいと思いますが、やり方次第、やるという気持ち次第で急性期への対応も十分に可能です。

ですから当院では、高齢者だけでなく小児や重症の方、医療依存度の高い方、社会的な問題を抱えた方など、あらゆる患者さんを受け入れています。例えば、がんのターミナル期の方、人工呼吸器を使用する神経難病の方、CARTや輸血、透析を必要とする方などです。

患者さんのほとんどは、病院よりも住み慣れた自宅での療養を希望されます。在宅の方が患者さんの気持ちが安定しQOLが向上しますし、経済面の負担を抑えることもできます。地域の中でその人らしい生活を続けられるよう、「在宅でできることは在宅で行う」ことを大切にしています。

諸見里事務長：当院の方針に賛同いただき、「ゆずりは訪問診療所でない」と指名してくださる紹介元も多く、大変うれしく思っています。

一 在宅医療には地域の急性期医療を補完する役目もあるとお聞きしました

屋宜院長：この地域に限らず日本の医療全体の傾向として、急性期医療は縮小しつつあります。限られた急性期の医療資源を有効に活用するために、これまで急性期病院が担っていたことを在宅で補完していかなければいけません。

近年はこうした医療の役割分担に少しずつ目が向けられるようになってきましたが、それは私たちが開業時より取り組み続けているものです。

急性期病院の後方支援を担うことで、地域医療全体を支えるという意識を持って訪問診療に取り組んでいる診療所は、なかなか他に無いのではないのでしょうか。

一 在宅医療で課題に感じていることはありますか

屋宜院長：在宅施設における役割の分化です。病院は慢性期や回復期、急性期のように医療機能が分かれています。在宅は一括りになっているのでリハビリをしている人もいれば急性期治療を行っている人もいます。急性期の患者さんが急性期治療のできない在宅診療所につながってしまうと、入退院を繰り返すことになってしまうなどせっかく在宅につながったメリットがありません。在宅施設においても、それぞれの役割を整理していくべきだと感じています。

一 今後の計画について教えてください

屋宜院長：2016年に私がたった1人で診療所を立ち上げた頃に比べると、在宅医療の認知は格段に広がってきました。ですが、当院の対応エリア外の地域では、今も「何かあればすぐ入院」という風潮のままです。今後はこうしたエリアに分院を開設することで、「在宅でできることは在宅で行う」雰囲気をもさらに広げていきたいですね。

諸見里事務長：法人としては、介護系の施設展開の強化を計画しています。病院の入院患者の中には一定数、介護を必要とする人もいます。縮小する急性期医療が本当に必要な人に届くように、介護の分野からも補完したいと考えています。



院長・事務長インタビュー

医師に求めるのは、患者の意思を尊重し 真摯に寄り添えること

ー どのような先生にお越しいただきたいですか

屋宜院長：医師に合わせて割り振りを行いますので、急性期の対応が出来なくても問題はありません。それよりも、やはり患者さんのことを真摯に考えられる先生です。説明ひとつ取っても、患者と話さず家族の意向だけで調整を行う医師もいます。本人に伝えた上でどういう選択をするのかを、患者さんと一緒に考えてあげられる先生を望んでいます。

ー 確かに看病・介護をする家族の意向が優先されるケースは少なくありません

屋宜院長：「家に帰りたい」という患者さんに対して、家族が「介護ができないので施設へ」と希望することもあります。本人は介護されるためではなく、生活するために帰るのです。たとえ十分な介護がされなくても帰りたいという意思が本人にあるのであれば、医療的なレスパイトは別として、その選択を尊重すべきだと考えています。

私たちの患者さんには、完全独居でお看取りをする方もいます。患者さんの生活を周りが決めてしまうことも多いですが、私たちとしてはできる限り本人の選択に寄り添っていきます。



ー 事務長から見た院長先生はどのような方でしょうか

諸見里事務長：患者さんからの信頼は絶大です。一般的に、医師は患者さんが抱えている医療的なトラブルに対処するのが役目です。

ですが院長は医療的処置だけでなく、生活環境の整備や介護の調整といった患者さんが抱える問題の根本にまでアプローチをして、患者本人が望む形で在宅医療を継続することに並々ならぬ力を注いでいます。私が非常に尊敬しているところです。患者本人に焦点を当て、本質を追及する姿には学ぶべきものが多くあります。

ー 働く環境について教えてください

諸見里事務長：当院はいわゆる首里城下町と言われる場所に位置しており、高台にあって静かな環境です。那覇インターチェンジから約5分と交通利便性が高いため、30分圏内から通勤される先生が多いですが、中部から来られている先生もいらっしゃいます。お子さんの発熱などによる急な休みも医師同士でフォローする体制を整えており、働きやすい環境整備に努めています。

屋宜院長：同僚となる先生方は、診療所の理念や方針を自分の中に落とし込んで、とてもよく頑張ってくれています。当院では、医師は単なる専門職であり職種の上下はないということを全員で共有していますので、スタッフとの仲も良く、気さくでフラットな雰囲気職場です。困った時にはいつでもすぐ相談いただけますし、毎朝のカンファレンスは約1時間かけて密に行いますので、1人で悩むようなこともありません。

ー 若手医師の教育にも力を入れているとお聞きしました

屋宜院長：訪問診療に興味を持つ若い医師が、しっかりとした知識やスキルを習得できるようサポートしています。当院だけでなく、さまざまな症例が集まってくる急性期病院は教育の場として優れていますので、病院とうまく連携しながらスペシャリストの育成ができるようなシステムの構築も検討しています。

また自分は何がしたいのかといった将来のキャリアプランも一緒に考えるようにしています。

キャリアにプラスになるものは積極的に勉強の機会も与えていて、全員に管理者研修を受けてもらっているのもその一環です。最近は研修の成果が現れてきて、周囲に配慮したり、より良くなるよう調整したりする姿が増え、診療所全体に良い影響を与えています。

ー 最後に事務長、院長それぞれからメッセージをお願いします

諸見里事務長：ゆったりとした職場ではありませんが、本気で在宅の患者さんを支えたいという先生にはやりがいのある職場です。スタッフ全員が真剣に、患者さんが在宅で療養するためにどうすべきかを問い続け、一つひとつに答えを出すため向き合っています。

急性期病院の医療を地域に、在宅に落とすことで、地域医療全体を支えるという使命を掲げて取り組んでおり、色々な挑戦ができる環境です。

屋宜院長：在宅医療が医師のセカンドキャリアと言われていたのは、もう過去の話です。患者さんの思いに寄り添いながら、地域医療を支えていきたいという熱意ある新たな力をお待ちしています。

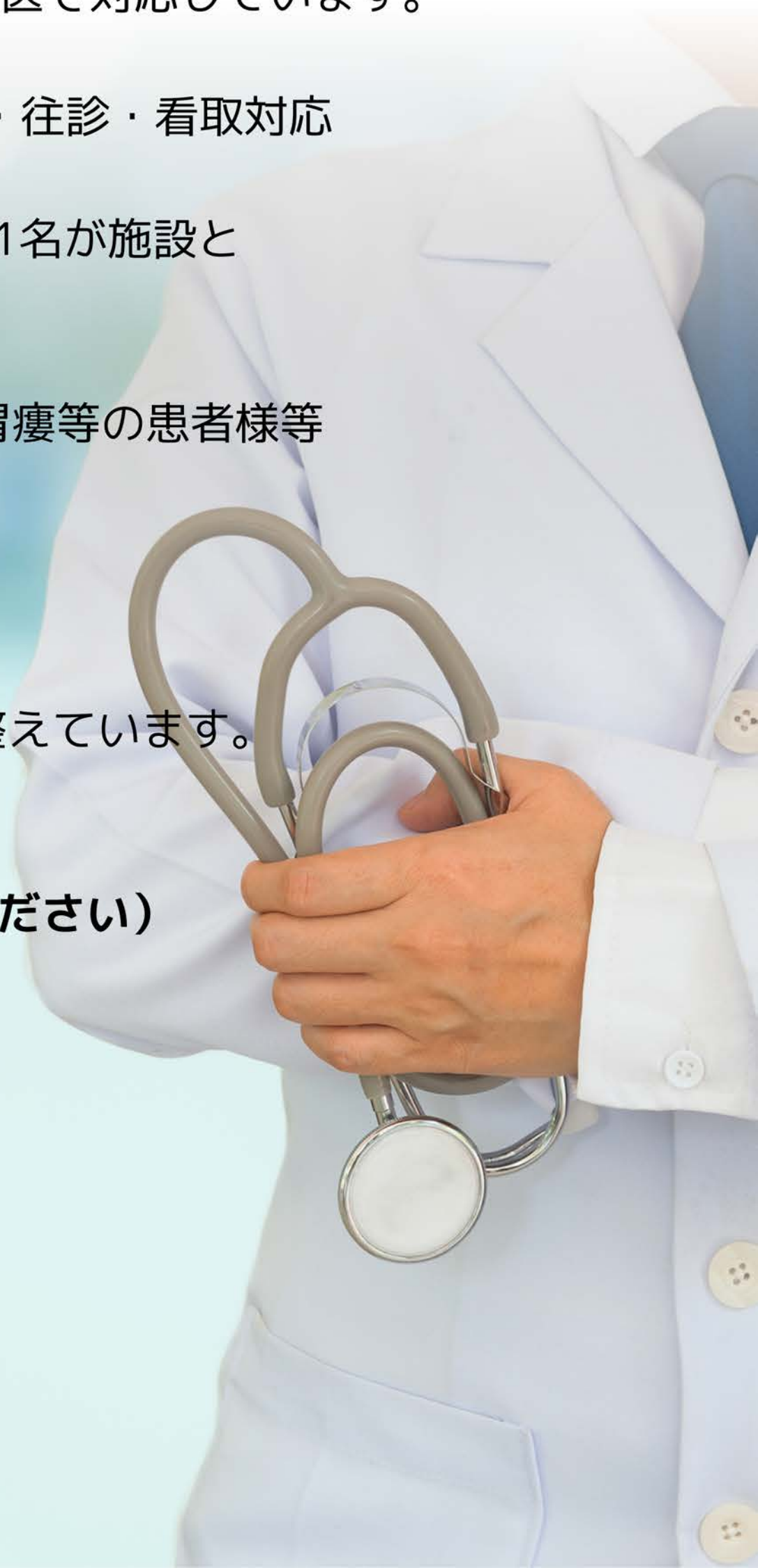
募集要項

在宅医療分野の知識やスキルが習得出来ます

将来ニーズが高まる在宅医療分野の知識やスキルが習得でき、週に1日の研修日も設けています。医療ケアだけでなく、介護ケアを含めて包括的に患者様をサポートする体制があります。

▼常勤医師募集：訪問診療▼

- 勤務開始： 随時
募集背景： 患者増による医師増員
募集科目： 一般内科、総合診療科 ※訪問診療未経験の方も歓迎します。
勤務日数： 週4～5日
勤務時間： 平日8:30～17:30（月～金）
休憩時間： 60分
休日： 土日祝他
時間外勤務： 原則なし
オンコール： あり
※非常勤医師で対応し、空き日程を常勤医で対応しています。
週1-2回
- 勤務内容： 定期訪問診療・往診／夜間オンコール待機・往診・看取対応
訪問地域： 南部エリア／
診療体制： 医師1～2名(医師1名とクラーク1名が施設と個人宅を合わせて6～9件/日)
・患者層（全般）
・対象：一般疾患、がん末期、神経難病、胃瘻等の患者様等
- 夜間待機場所： 自宅
夜間コール頻度： 1～5件
夜間出勤件数： 0～3件（看取り対応、救急対応）
オンコール体制： 緊急対応時に対応相談が必要な場合、医師リーダーへの問い合わせ体制を整えています。
- 基本給与： 1,800～2,100万円
（週5日の場合※週4日希望の場合はご相談ください）
オンコール手当： 月-木、日10,000円 金土15,000円
出勤手当： 7,000円～12,000円/回
電話手当： 800円～1,500円/回



【福利厚生・支援制度(全科共通)】

契約期間	：	期間の定めなし
休日	：	土日祝他 週休2日
休暇	：	夏季休暇(医局で調整の上、有給にて取得可) ： 年末年始休暇(4日[12/31～1/3]) ※年末年始はオンコール当番あり 有給休暇(法定どおり)
退職金	：	なし
各種保険	：	雇用保険、労災保険、健康保険、厚生年金、医師賠償保険：法人として加入 個人の医師会の加入費：法人負担
赴任手当	：	なし ※引越し費用の助成あり
住宅手当	：	なし
通勤手当	：	なし
扶養手当	：	なし
時間外手当	：	あり ※勤務時間外の対応についてはオンコール出動手当と同額支給
学会参加	：	あり (参加1回/年・発表2回/年、いずれも最大4万円/回を支給)
賞与	：	なし
昇給	：	あり ※経営状況による
育児支援	：	急なお休み可、病児連れの出勤可、その他ご相談ください
駐車場	：	あり
大学医局	：	なし
定年制度	：	あり 65歳まで
契約期間の定め	：	あり 勤務開始より3カ月 更新あり ： 勤務態度等により検討
試用期間	：	なし
時間外勤務	：	なし
固定残業代	：	あり
給与〆支払日	：	15日締め 月末払い
受動喫煙対策	：	敷地内禁煙
自己都合退職申出	：	就業規則による。退職は2ヶ月前までに申し出ること。



地域について



おおらかな県民性と利便性の高い街

那覇市は沖縄本島の中心に位置する沖縄県の県庁所在地で 人口32万人余を有する政治・経済・文化の中心地です。 標高165m程の首里台地から東シナ海に面してゆるやかに傾斜した平野部を背景に、古くから港が整備され海外との交流拠点としても有名な「琉球王国」文化があった街です。

モノレールやバスの交通機関が充実しており、商業施設も揃っているため、利便性の高い住みやすさが特徴です。

明るく朗らかでおおらかな性格の型が多い県民性と言われる通り沖縄には穏やかでゆったりとした時間が流れています。

自然の恵み、街歩き、歴史探訪ができる



首里城

沖縄の歴史・文化を象徴する城。2019年の火事から復興を目指し本格再建奮闘中。いくつもの広場や美しい曲線美の石垣など見どころが満載。



SeaWorld

シュノーケリングはもちろん、パラセーリングやジェットボートなど迫力のアクティビティが楽しめる人気スポット。



国際通り

那覇市のメインストリート。ホテル、ショップ、レストランが軒を連ねる商店街。日曜日にはストリート パフォーマンスや食べ物の屋台を楽しむ。

高齢化社会の問題

沖縄県の高齢化率は、全国の他の都道府県と比較すると相対的に低く見えますが、今後の高齢者数増加率は全国の中でも突出して高く、高齢者は現在5人に1人の割合が2045年を迎える頃には3人に1人の割合まで増加されると見込まれています。



県内の平均世帯人数は減少の一途を辿っており、高齢者の単独世帯や夫婦のみの世帯の増加も目立ちます。トラブルや事故の発生にいち早く気づくための社会的な取り組みが必要とされています。

健康問題に対する課題

沖縄県の要介護・要支援認定者数は2003年では3万6,412人でしたが、20年後の2023年では6万2,834人と、ここ**20年で1.7倍に増加**しています。

死因順別の死亡率では高齢化による老衰が増え、アルツハイマー病も上位に上がっています。
22年度末の要介護・要支援者に占める認知症高齢者は5万人を超えています。



※出典元 内閣府調査 令和3年版高齢社会白書（全体版） 総務省「国勢調査」

概要・アクセス

施設概要

名 称 : 医療法人真成会 ゆずりは訪問診療所
住 所 : 〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町 3 丁目 3 2
開 設 : 2018年4月24日
理事長・院長 : 屋宜 亮兵（救急科／琉球大学）
救 急 指 定 : なし
病 床 種 別 : 無床クリニック
診 療 科 目 : 一般内科、総合診療科、在宅診療
院 内 設 備 : 超音波検査、心電図、血液検査機器、簡易PSG、終夜酸素飽和度測定
ア ク セ ス : 沖縄自動車道那覇ICより車で5分
ゆいレール首里駅より車で5分
駐 車 場 : あり
カ ル テ : 電子カルテ
施 設 H P : <https://shinseikai.okinawa/>

医療法人真成会 理事長

屋宜 亮兵



略歴

平成18年 国立大学法人 琉球大学 医学部医学科 卒業
平成18年 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 臨床研修
平成20年 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 救急専従医
平成24年 社会医療法人仁愛会 浦添総合病院 救急総合診療部
平成28年 ゆずりは訪問診療所 開設
平成30年 医療法人真成会 理事長就任
令和4年 医療法人育泉会 理事長就任

資格

平成24年 日本救急医学会 救急専門医
平成25年 日本内科学会 認定内科医
令和4年 日本在宅医療連合学会 在宅医療専門医・認定指導医

アクセス



沖縄自動車道那覇により車で5分
ゆいレール首里駅より車で5分



概要

すべての医療・福祉関係者に知ってほしい。
在宅医療・介護はセカンドキャリアでなく、
これから必要な分野であるということを。

近年日本の医療は大きな過渡期を迎えています。

特に急性期医療においては適正化が推し進められており、結果として急性期医療の縮小化が行われています。それに伴って今まで急性期医療が担っていた地域医療や地域介護の一部も縮小していています。

我々はそこをカバーしていくために法人設立当初から“医療介護を変える。地域が変わる”をミッションにかかげ、在宅医療・介護の質を上げるために法人を挙げて日々努力を重ねてきました。

法人の理念に沿って、職員を大切にし、患者さん・利用者さんを大切にし、みんなが住みよい地域を作っていく。そのような法人であり続けたいと思っています。



法人概要

社 名：医療法人 真成会（いりょうほうじん しんせいかい）

設 立：2018年4月

代 表 者：屋宜 亮兵（理事長）

資 本 金：2億395万円

運営事業所名：ゆずりは訪問診療所

ゆずりは訪問看護ステーション

まつりか定期巡回ステーション

介護老人保健施設はなみずき

通所リハビリテーションはなみずき

ひまわり居宅介護支援センター

所 在 地：〒903-0815

沖縄県那覇市首里金城町三丁目32番地

連 絡 先：TEL：098-885-7001

FAX：098-885-7002





採用に関するお問い合わせ

株式会社Rakusai

田辺 健(タナベ タケシ)

MOBILE: 090-8563-4729

E-mail: rpo@rakusai-corp.jp